

■司 会／河野 明宏 大分県教育庁生涯学習課 主任社会教育主事
大坪 淑子 福岡県教育庁南筑後教育事務所生涯学習室 社会教育主事

1 「チャイルドラインしまね」の創設 13:30～13:55

－研修、受け入れ、協力ネットワーク創造のプロセス－

周藤八重子（島根県大田市） NPO法人 しまね子どもセンター 理事

平成15年チャイルドライン全国キャンペーンに際し、県内児童・生徒からのアクセスの多さからチャイルドライン立ち上げの必要を判断。NPOリーディング事業として資金を確保し、「受け手」研修、「受け手の支え手」研修を実施。現在25名の「受け手」が子どもの声を受け止め始めている。受け手の増員、フリーダイアル化、運営スタッフの確保など課題もあるが、事業を支える団体や個人とのネットワークを形成したところである。

PM

2 ひろしまチャイルドライン子どもステーション 13:55～14:20

－「子どもの声」が大人をつなぐ「心の居場所」づくり－

上野 和子（広島市） NPO法人 ひろしまチャイルドライン子どもステーション 理事長

目的は、子どもの気持ちを受け止め、子どもの「心の居場所づくり」。養成講座を終了した「受け手」は現在約70名。チャイルドラインには、受け手を支える「支え手」がおり、「ケアする人のケア」を行っている。ボランティアの仲間づくりが大人の心の居場所作りにもなっている。子どもたちが安心して電話をかけられるよう、フリーダイアル化は不可欠。社会的認知を高め、通話料確保・人材確保することが今後の課題である。

ティータイム 14:20～14:55

3 NECO（沖縄自然教育カフェ）のわくわく自然教室 14:55～15:20

－大学生が企画する子どもの生活体験支援プログラムの原理と方法－

丸谷 由（沖縄県中城村） NECO〔沖縄自然教育カフェ〕 代表者

琉球大学の学生グループが企画・指導する野外教育の実践。2000年11月に創設。舞台は沖縄中南部の自然、参加は会員制を取り、年間約30回の自然教室を実施。中身は幼児からその母親を含めた異年齢集団における様々な生活体験プログラムである。学生が主体であるため最大の課題は「継続性」である。

4 自分の責任で自由に遊ぶ 15:20～15:45

－まちの中に「冒険遊び場」を創造するには－

柴田 知行（佐賀市） NPO法人 SAGA (Saga Adventure Ground Association)

「冒険遊び場」をテーマにしたワークショップが出发点。活動の中心はNPO;SAGA (Saga Adventure Ground Association)、メンバーは子どもの健全育成に関わる保護者、市職員などで構成。遊び場の主眼は「大人の指導」ではなく、「子ども自身の創造力を育む環境」の整備である。イベントごとに200人以上の参加者を得て、「冒険遊び場」が地域の子育ての結節点となっている。

5 総括討論 15:45～16:15